

令和3年度第1回富山県環境審議会水環境専門部会 議事概要

1 日時

令和3年8月31日（火）13時30分から15時まで

2 場所

富山県民会館 509 会議室

3 出席者

委員等：楠井専門部会長、加賀谷委員、内田専門員、倉光専門員、高橋専門員、袋布専門員、手計専門員、中山専門員、藤縄専門員

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、楠井部会長以外の委員等はウェブ会議ツールにより出席

事務局：林生活環境文化部次長、中山環境保全課長ほか

4 議事

- (1) 富山県水質環境計画の改定について
- (2) 富山県における水質環境の現状と課題について
- (3) 次期水質環境計画の骨子案について
- (4) 今後のスケジュールについて

5 主な意見、質疑応答

- (1) 富山県水質環境計画の改定について

特になし。

- (2) 富山県における水質環境の現状と課題について

[委員等] 夏場のCODの環境基準値超過について、昨年度の専門部会でのデータと見比べてみたところ、小矢部川、神通川河口海域の7月と8月に関しては、令和2年度測定結果は令和元年度測定結果よりも環境基準値超過の回数が多くなっていた。一方で3月や6月等を見ると、令和2年度測定結果は令和元年度測定結果よりも改善している。河川のBODとはそんなに連動しないと思うが、これらの傾向のメカニズムについて知見はあるか。

[事務局] 河川のBODと海域のCODを比較したが、明確な傾向は見られなかった。気象、海象の影響等が複雑に絡み合っていると考える。

[委員等] 今後、例えば環境科学センターと原因究明していく予定か。

[事務局] 環境科学センターにおいて調査研究を進めるとともに、水質の常

時監視データの推移を注視したい。

〔委員等〕参考資料6で海洋水質環境の健全性に関する環境科学センターの年報について説明があったが、健全性を示す指標を、今後、県として独自に行政に取り入れていく予定はあるか。

〔事務局〕富山湾の水質環境健全性の指標については、課題だとは考えており、他県の情報収集は行っているが、具体的なものは見出せていない。次期計画期間の中で検討していきたい。

〔委員等〕計画の目指す姿として、「魚が住み～」と謳っているが、有峰湖などでは本来、そこに生息していない魚種が増えている。こういったことは、この計画の目標にそぐわないし、SDGsの面でも望ましくないと思うが、どのように意識しているか。

〔事務局〕ご指摘については、常時監視の調査項目でないことから状況を把握していないため、まずは担当課から実態をヒアリングしたい。それを踏まえて、今後の検討としたい。

〔委員等〕参考資料6のまとめでは、海洋水質環境の健全性は保たれていると推察されたと記載されているが、資料4の表4-1の注釈では、非常に悪いという書き方になっている。健全だという意見も反映させてはどうか。

〔事務局〕ご意見を踏まえて書きぶりを検討する。

〔委員等〕先ほどの意見にもあったが、県独自の指標をつくる必要があるのかも含めて検討していただきたい。

〔委員等〕水質汚濁事故対策として、広報活動やリーフレットの中で事例を踏まえた啓発は行っているか。

〔事務局〕一般家庭向けでは、ホームタンクから石油ストーブのタンクに灯油を移す作業でのバルブの閉め忘れ等で油の流出事故が起きていること、事業者向けには、防液堤を設置することで油の流出事故は防げることを紹介している。

〔委員等〕それらを計画の中に記載してはどうか。そのような周知・啓発を行っている県側の姿勢として書いてもいいと思う。

〔事務局〕書く方向で検討する。

〔委員等〕資料2に水環境保全活動の実施状況とあるが、水環境保全活動の定義はどうなっているのか。地域の河川や名水の清掃、身近な水辺での生き

物調査とあるが、海岸の清掃活動は含まれていないのか。

〔事務局〕 清掃活動も含まれている。

〔委員等〕 それでは、もっと活動人数が増えるのではないか。集計漏れがある可能性がある。

〔事務局〕 こちらで把握できた活動人数なので、その可能性もある。また、一過性の活動、継続的な活動等もあるので、集計対象を明確にしたい。

(3) 次期水質環境計画の骨子案について

〔委員等〕 参考資料5の汚濁負荷量実態調査では、大腸菌数や底層溶存酸素量等を調査項目に加えるのか。

〔事務局〕 調査項目はBOD、COD、窒素、りんであり、大腸菌数や底層溶存酸素量は含まない。

〔委員等〕 現在、瀬戸内海では排水規制により栄養塩類が不足し、不漁が問題となっている。富山湾におけるCODの環境基準値超過傾向と今後の栄養塩類管理をどうするかについては、今後の検討の中で明確にしていくべきと考える。

〔委員等〕 富山県は海産物が非常に重要な資源なので、漁業関係者にヒアリングしてみてはどうか。CODが下がっても、それが漁業に影響したら本末転倒になってしまう。

〔事務局〕 今のところ栄養塩類が少なくなったために漁業に影響があったという報告はない。また、赤潮により苦しんでいるという報告もない。ご指摘については、漁業の担当課に実態を聞いてみる。

〔委員等〕 参考資料5の水質の将来予測については具体的にどのような方法で行うのか。また、調査対象年度を令和8年度と13年度にしたのはどのような基準で定めたのか。

〔事務局〕 将来予測については、人口予測等をパラメーターとして用い、将来の富山湾への汚濁負荷量を求める。令和8年度と13年度については、計画期間を踏まえた5年後、またその先である10年後に設定した。

〔委員等〕 資料5の後半に、「とやまの名水」の見直し・拡充の中で、新たな基準で追加選定する等の見直しを行うと書かれている。この新たな基準とは、具体的にどのようなことを想定しているか。

〔事務局〕 現在の名水は、きれいな水、水量がある湧水、故事来歴のある名水といった基準で優れたものを選んだものである。これらに追加して考えて

いるのが、魅力的な水辺の空間、景観等である。もし見直すことになれば、有識者にもご意見を伺いながら、進めていきたい。

〔委員等〕水質汚濁事故の発生件数はどのようにカウントしているのか。

〔事務局〕県が事務局となり、国、市町村、消防等が構成員となった水質汚濁事故対策連絡会議を設けている。この枠組みのもと、市町村などから県に報告されたものをカウントしている。

〔委員等〕参考資料7において、夏季における水質汚濁は、成層化が原因とされている。この成層化が生じている深さはどのくらいか。また、水温による成層か、塩分による成層か。

〔事務局〕83 ページの図4、84 ページにあるように、神通川河口海域では水深70m前後を境に水温により成層化している。

〔委員等〕CODは表層から水深10mで濃度が減少しており、必ずしも成層の深さと合っていないが、TOCは表層と深層でほとんど変化がないことから、有機汚濁物質の組成が表層と深層では違うということだと思われる。こういった解明が、健全性を評価するうえで非常に重要なのではないかと思われる。

〔委員等〕資料2の地下水の水質について、テトラクロロエチレンが小矢部市で環境基準値を超過している。この調査地点数が3地点になっているが、環境基準値超過地点よりも上流側に調査地点があるようであれば、この上流側の地点は調査から外してもいいのかもしれない。また、経緯を詳しく見たいが、最高濃度がいつの時点でどれくらいだったか等についてご教示いただきたい。

〔事務局〕後日、資料を提供させていただく。

(4) 今後のスケジュールについて

特になし。

- 次期水質環境計画の骨子案は了承され、次回の専門部会に向け事務局において素案を作成していくこととされた。